



ICHIKEN

第90期 株主通信

平成27年4月1日～平成28年3月31日



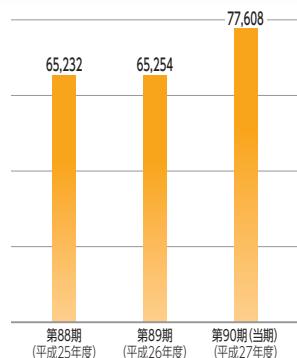
株式会社 **イチケン**

証券コード:1847

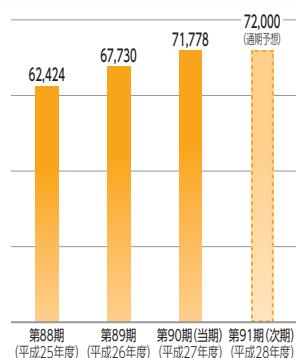
主な経営指標の推移

FINANCIAL HIGHLIGHTS

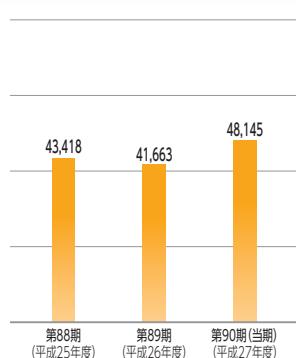
受注高 (単位：百万円)



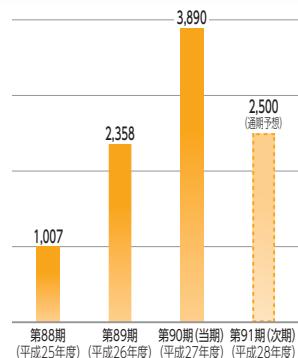
売上高 (単位：百万円)



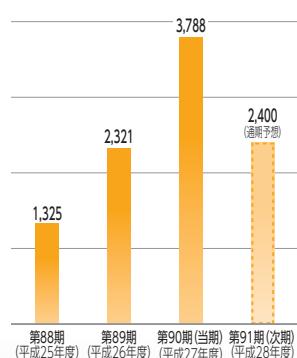
手持工事高 (単位：百万円)



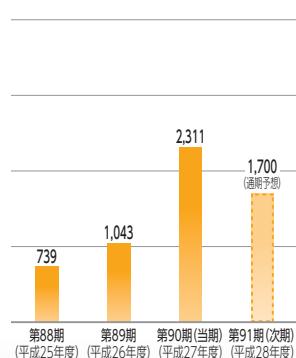
営業利益 (単位：百万円)



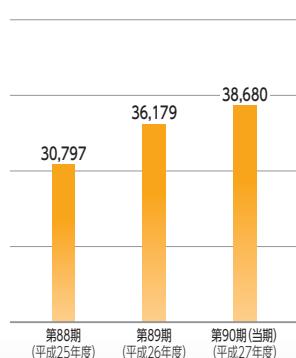
経常利益 (単位：百万円)



当期純利益 (単位：百万円)



総資産 (単位：百万円)



純資産/1株当たり純資産



当期決算の
ポイント

- Point 1** 受注高は、商業施設を中心として受注が堅調に推移したことなどにより、776億8百万円(前期比18.9%増)となりました。
- Point 2** 営業利益は、完成工事高の増加や低採算工事の減少などにより、38億9千万円(前期比64.9%増)となりました。
- Point 3** 純資産は、当期純利益23億1千1百万円(前期比121.6%増)を計上したことにより、110億5千2百万円(前期末比20.9%増)となりました。

ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

また、本年4月に発生した「平成28年(2016年)熊本地震」により被災されました方々に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い、被災地の復興をお祈り申し上げます。

当社第90期における営業のご報告にあたり、ここに謹んでご挨拶申し上げます。

当期における建設業界を取り巻く環境は、オリンピック関連事業やインバウンド需要の高まりにより、首都圏を中心とした公共投資や民間設備投資の増加等、持ち直しの動きが見られるものの、技能労働者不足や労務費及び資材価格の上昇懸念など、依然として予断を許さない状況が続きました。

このような状況のもと、当社は、これまで培ってきたコア事業である「商業施設」の新築工事や内改装工事を中心とした建設事業のノウハウや企画・提案力を生かし、受注活動に取り組んだ結果、当期の売上高及び各利益ともに当初の予想を大幅に上回る結果を残すことができました。

当社を取り巻く経営環境は今後も予断を許さない状況が続くものと予想されますが、株主の皆様のご期待に応えるべく、社員一同一丸となってさらに努力する所存でございます。

株主の皆様には一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



平成28年6月

代表取締役社長 長谷川 博之

1 **Question** 当期の決算のポイントなどについて教えてください。

1 **Answer** **売上高及び各利益ともに当初の予想を大幅に上回る結果となりました。**

当期の業績につきましては、ホテルを含む商業施設の受注が堅調に推移し、受注高は776億8百万円(前期比18.9%増)、売上高は717億7千8百万円(前期比6.0%増)となりました。次期への繰越工事高は481億4千5百万円(前期比15.6%増)となりました。

損益につきましては、完成工事高の増加や低採算工事の減少による利益率の改善などにより完成工事総利益が増加したため、営業利益は38億9千万円(前期比64.9%増)、経常利益は37億8千8百万円(前期比63.2%増)となりました。また、賃貸用不動産の一部について、減損損失4億8千8百万円を

特別損失に計上したことから、当期純利益は23億1千1百万円(前期比121.6%増)となりました。

また、当期における財政状態は、資産合計が前期末に比べ25億1百万円増加し、386億8千万円となりました。主な要因は、完成工事高の増加に伴う完成工事未収入金の増53億9千6百万円であります。

負債合計は前期末に比べ5億9千3百万円増加し、276億2千7百万円となりました。主な要因は、消費税負担の増加に伴う未払消費税の増7億9千3百万円であります。

純資産合計は、前期末に比べ19億7百万円増加し、110億5千2百万円となりました。主な要因は、当期純利益の計上などに伴う利益剰余金の増20億5千9百万円であります。

2 Question 今後のビジョンについてお聞かせください。

2 Answer 創業100周年に向けて「新しいイチケン」を目指してまいります。

当社は、「品質の向上と安全の徹底に努め、いかなるときもクリエイティビティを発揮し、商業空間事業を通じ、快適で豊かな社会の実現をめざす」という経営理念のもと、人々の日々の営みに「より豊かで快適なくらし空間」をご提案させていただくことで、企業価値を高めていきたいと考えております。

当社は総合建設会社として、企画、設計から監理、施工、そしてアフターメンテナンスまで、ワンストップで対応可能な体制をより一層お客様にご満足いただけるよう整備してまいります。さらに、地球環境への配慮、耐震建築、建物のライフサイクルコスト等の社会からの要請にも応えるため、品質の向上に向けた品質マネジメントシステム(ISO9001)、低炭素社会と循環型社会の実現に向けた環境マネジメントシステム(ISO14001)、安全衛生環境の向上に向けた建設業労働安全衛生マネジメントシステム(COHSMS)などの各種マネジメントシステムを積極的に運用してまいります。また、これらの活動による技術や品質レベルの向上と、営業力・施工力の強化等への積極的な取り組みを通じて、創業100周年に向けて『新しいイチケン』を目指してまいります。

その一環として、創業85周年の節目にあたる当期に中期経営計画を策定いたしました。中期経営計画の達成を通じて、当社の持続的な成長と長期的な企業価値の向上を図ってまいります。

3 Question 中期経営計画について教えてください。

3 Answer 「中期経営計画」に基づく目標・課題を共有し、その実現に努めます。

今後の事業環境につきましては、短中期的には、東京オリンピック関連事業やインバウンド需要の高まりを背景として、受注環境は堅調に推移するものと見込まれる一方で、慢性的な技能労働者不足や労務費及び資材価格の上昇などによる施工管理・工事採算面におけるリスク管理の重要性がさらに増大する

ものと思われま。

また、長期的には、オリンピック関連の建設需要一巡後の反動懸念や中国をはじめとする新興国の景気減速が及ぼす影響等、国内景気の先行きには不透明感があり、今後も予断を許さない状況が続くものと思われま。

このような中、当社は、「差別化集中戦略による営業力強化」を建設事業の基本戦略とし、「建設事業の売上高減少に備え、安定した収益基盤の構築」を経営課題とする中期経営計画を当期に新たに策定いたしました。

中期経営計画のもと、当社は、建設事業における技術提案力の強化や採算性を重視した取り組みのほか、不動産事業の活性化や新規事業への取り組みにより、第91期(平成28年度)は、売上高720億円、営業利益25億円、経常利益24億円、当期純利益17億円を、中期経営計画の最終年度である第94期(平成31年度)には、売上高800億円、営業利益28億円、経常利益27億円、ROE(自己資本利益率)10%以上の達成を目指して、全役職員が目標や課題を共有し、一丸となって取り組んでまいります。

4 Question 株主還元など、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

4 Answer 今後とも一層のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

当社は、事業の成長・拡大及び財務基盤の安定化による企業価値の向上と、株主の皆様への直接的な利益還元である配当の安定的な実施に重点を置き、利益の配分に際しては、今後の成長・拡大に備えた内部留保の充実を考慮して決定することを株主還元の基本方針としております。

当期の期末配当金は、上記の基本方針に基づき、前期より1円増額し1株当たり8円とさせていただきます。第91期(平成28年度)の期末配当は1株当たり8円を予想しております。

今後も株主の皆様のご期待と信頼に応えられるよう邁進してまいりますので、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

中期経営計画を策定

■ 建設事業の基本戦略

● 差別化集中戦略による営業力強化

■ 経営課題

● 建設事業の売上高減少に備え、安定した収益基盤の構築を図る

■ 重点施策

施策1 技術提案力の強化 (差別化・優位性)

● 技術集団として、社会から信頼される品質・安全の提供や環境に配慮し、多様化するニーズに対して差別化・優位性を提案できる営業力を強化する

施策2 建設事業は採算性を重視した取り組みを強化

● 建物用途別の売上構成は商業施設7割、マンション他で3割を基本とする
● 潜在需要の見込める内装・改造・リニューアル工事への取り組みを推進する
● 耐震建築や建物のライフサイクルコスト等、社会からのニーズへの対応力の向上や、環境マネジメントシステムの導入を機として地球環境に配慮した事業活動を推進する

施策3 不動産事業の活性化

● 保有不動産の立地や用途等の資産構成の特性を踏まえて、賃料収入の増強、資産の入替え、新規取得等を含めて再検討し、建設事業を補完する事業として育成する
● 不動産開発投資による事業計画も取り組みの対象とする

施策4 新規事業への取り組み ～新たな成長基盤を構築～

● 事業の方向性や内容を検討して事業投資を実施
(投資は平成29年度以降に本格化)

施策5 マネジメント力の向上 (人材育成、コンプライアンス遵守等)

● 複雑化する経済社会の中での事業活動による予測しがたい事象に対して、的確に判断できる現場力を磨く

■ 経営目標

(単位:億円)

	第90期(当期) (平成27年度)		第91期(次期) (平成28年度)		第92期 (平成29年度)		第93期 (平成30年度)		第94期 (平成31年度)	
	実績	利益率	目標	利益率	目標	利益率	目標	利益率	目標	利益率
売上高	717	-	720	-	730	-	750	-	800	-
営業利益	38.9	5.4%	25.0	3.5%	25.5	3.5%	26.0	3.5%	28.0	3.5%
経常利益	37.8	5.3%	24.0	3.3%	24.5	3.4%	25.0	3.3%	27.0	3.4%

ICHIKEN ワークス

イチケンが創造する豊かで快適な『暮らし空間』。その一部をご紹介します。

アパホテル<上野駅前>

ホテル



(東京都台東区)
竣工：平成28年1月
構造：S造 14階建
延床面積：2,450㎡

GODAI 亀戸校 (亀戸インドアプラザ) <テニスカレッジ・ゴルフアカデミー・ゴールデンキッズ>

スポーツ施設

(東京都江東区)
竣工：平成28年2月
構造：S造 4階建
延床面積：4,123㎡



国立病院機構 和歌山病院

医療施設

(和歌山県日高郡)

竣工：平成28年3月

構造：RC造 4階建

延床面積：14,052㎡



イオンスタイル板橋前野町店 〈全館改修工事〉

商業施設



(東京都板橋区)

竣工：平成27年11月

構造：S造 6階建

延床面積：26,412㎡



特別養護老人ホームやぐるま苑

介護施設



(大阪府大阪市)

竣工：平成28年3月

構造：S造 7階建

延床面積：5,492㎡

ガーラ・プレシャス川崎

マンション

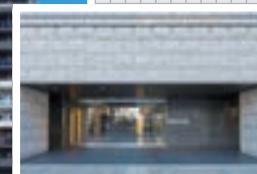


(神奈川県川崎市)

竣工：平成28年2月

構造：RC造 12階建

延床面積：8,813㎡



ホテルサンルートソプラ神戸アネッサ新築工事 着工!

神戸市兵庫区においてホテルサンルートソプラ神戸アネッサ新築工事に着工いたしました。

規模は敷地面積926㎡、延床面積3,696㎡、地上10階建てで、シングルを中心に174室を計画しています。外国人の団体旅行客などが宿泊しやすいよう、大型バス2台分の駐車場も設ける予定です。



建災防から全支店のCOHSMS認定を取得【認定事業所の拡充】



写真左：長谷川社長

当社は、平成27年4月23日に、建災防（建設業労働災害防止協会）から、東京支店のCOHSMS（建設業労働安全衛生マネジメントシステム）認定を取得していましたが、平成28年2月26日に全支店のCOHSMS認定を取得しました。

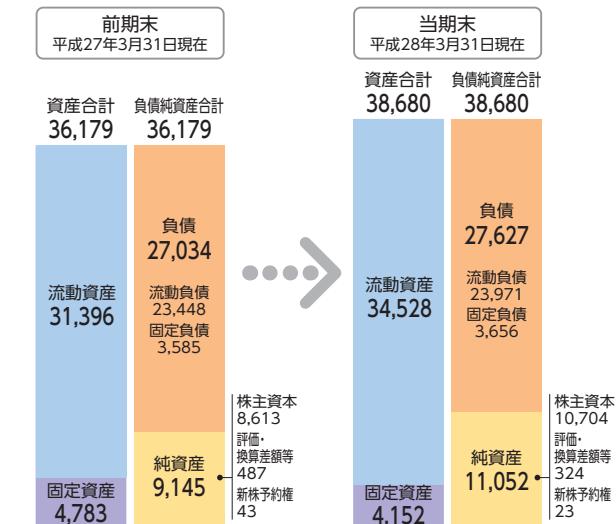
安全衛生水準の向上に努め、労働災害・事故の撲滅を目指すとともに、快適な職場環境の維持や、労働者の健康増進に取り組んでまいります。

詳細な財務情報は

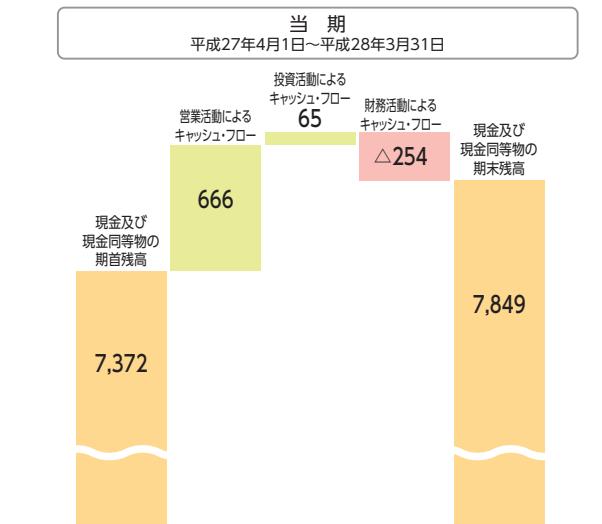
[イチケン](#) [IR情報](#)

[検索](#)

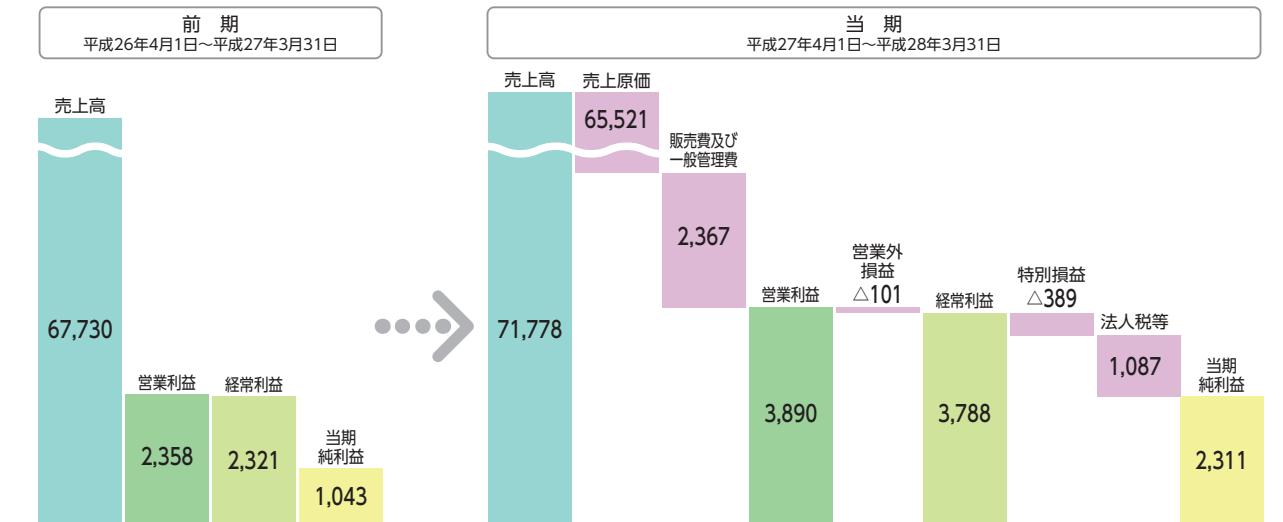
● 貸借対照表の概要 (単位:百万円)



● キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)



● 損益計算書の概要 (単位:百万円)



会社概要

(平成28年3月31日現在)

商号	株式会社イチケン
創業	昭和5年6月
資本金	43億2,167万2,065円
営業種目	総合建設業、貸ビル賃貸業、住宅・商業施設ディベロッパー事業、都市環境整備事業、複合商業施設企画・設計・施工・監理、専門店舗企画・設計・施工・監理
従業員数	591名
取引銀行	三井住友銀行 三菱東京UFJ銀行 東日本銀行 他

役員

(平成28年6月28日現在)

取締役および監査役

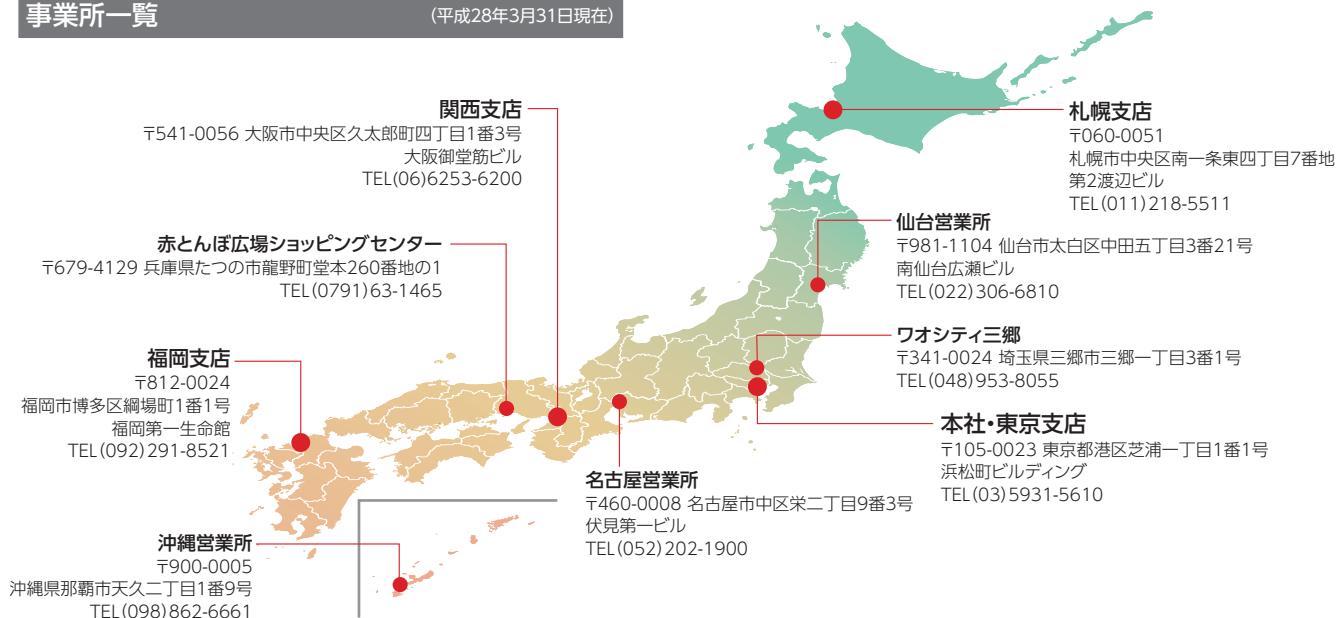
代表取締役社長	長谷川 博之	取締役(社外)	藤田 進
取締役	古川 仁一	取締役(社外)	武内 秀明
取締役	吉田 稔	常勤監査役	木村 隆夫
取締役	西出 英雄	監査役(社外)	西村 正明
取締役(社外)	本山 洋平	監査役(社外)	吉識 至孝

執行役員

社長執行役員	長谷川 博之	執行役員	山口 清人
専務執行役員	古川 仁一	執行役員	野崎 晃
常務執行役員	吉田 稔	執行役員	阿野 浩二
常務執行役員	佐々 英昭	執行役員	磯野 慶治
常務執行役員	湯ノ口 智治	執行役員	濱野 明
執行役員	西出 英雄		

事業所一覧

(平成28年3月31日現在)



※平成28年3月31日をもちまして神戸営業所を閉鎖いたしました。

株式の状況

(平成28年3月31日現在)

発行可能株式総数	111,200,000株
発行済株式の総数 (自己株式107,280株を含む)	36,342,000株
株主数	3,589名

大株主

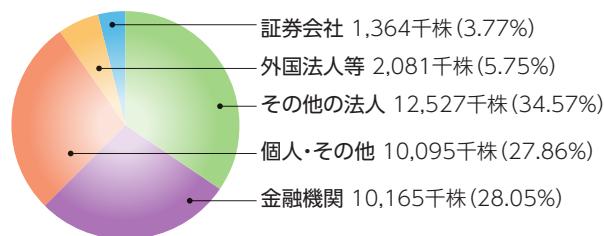
(平成28年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社 マルハン	11,714	32.32
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,585	12.65
株式会社 三井住友銀行	996	2.74
全国一栄会持株会	709	1.95
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	672	1.85
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) (常任代理人株式会社三菱東京UFJ銀行)	659	1.81
株式会社三菱東京UFJ銀行	592	1.63
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	566	1.56
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL (常任代理人ゴールドマン・サックス証券株式会社)	469	1.29
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	330	0.91

- (注) 1. 持株数は1,000株未満の株式数を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は各株主の持株数(1,000株未満の持株数を含む)の自己株式を除く発行済株式の総数に対する比率を記載しており、パーセントの数値は小数点第2位未満を切り捨てて表示しております。
 3. 全国一栄会持株会は当社の取引先企業で構成されている持株会であります。

所有者別株式分布の状況

(平成28年3月31日現在)



(注) 自己株式を除外した比率を記載しております。

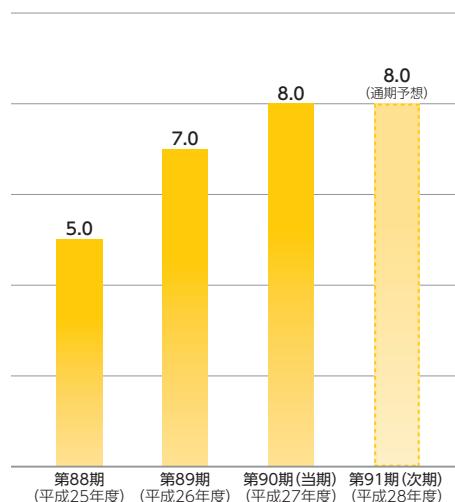
● 株主還元の様況

当期の期末配当金は、前期より1円増額し、1株当たり8円とさせていただきます。

当社は、事業の成長・拡大及び財務基盤の安定化による企業価値の向上と、株主の皆様への直接的な利益還元である配当の安定的な実施に重点を置き、利益の配分に関しましては、今後の成長・拡大に備えた内部留保の充実を考慮して決定することを株主還元の基本方針としております。

次期(第91期)の期末配当につきましては、上記の基本方針及び次期の業績予想数値を勘案し、1株当たり8円を予想しております。

1株当たり配当金 (単位:円)



*第89期には創立85周年記念配当(1株当たり2円)が含まれております。

当社ホームページのご案内

<http://www.ichiken.co.jp>

当社ホームページでは、ニュースリリースをはじめ、詳しい事業案内やIR情報など充実した情報を適時、掲載しています。



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会の議決権 毎年3月31日
	毎年3月31日
配当金受領株主確定日	なお中間配当を実施する場合の株主確定日は毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711(通話料無料)
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
公告方法	電子公告により行います。 (当社ホームページ) http://www.ichiken.co.jp 但し、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。

お知らせ

▶ 株式に関する住所変更等のお申出先について

1. 証券会社の口座に株式をお持ちの株主様
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
2. 特別口座に株式をお持ちの株主様
特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

▶ 未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。



株式会社 **イチケン**

〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目1番1号 浜松町ビルディング
電話(03)5931-5610 (9:00~18:00、土・日・祝日・年末年始を除く)

